

義母

私は装いというものを大事だと思っている。その人の抱えている文化や心意気、美意識も含めたそれらを表現する一つの要素と思うからだ。まず日本で作った靴がバリ

私の履歴書

子 恵 岸

⑬

豪快な人柄に魅了され

「地の塩」自由愛し信念貫く

の空気に合わなかった。私は身長に比べて足が21センチと極端に小さい。シャンゼリゼ近くに注文靴を作る有名店があった。2人の女友達に伴われてその店に入った。愛想よく迎えた女店主が私の足を見て、厚化粧の顔を膨らませた。「そんな小さい靴は作れま

せん。子供の靴屋に行くか……。植民地へ帰るんですね」(植民地?) 私はフランスにも人種的偏見があるのかと驚いた。24歳の私と同じ年のテレーズという威勢の良いパリっ子が私の腕を取り、ドアを開けながら言い放った。「この店に来ないよう言

いふらすわ。汚いユダヤ人」強烈な憎しみの言葉に私は鳥肌が立った。店の外で別の友人ニコールがほほ笑んだ。「私もイスラエル人なの」

「あら、何てことを私は言ったの。ごめんさい」テレーズは慌ててニコールに謝った。2人の会話に私は混乱した。(ニコールはなぜ自分のことをユダヤ人でなくイスラエル人と言ったのか。そもそもユダヤ人って何?)

その夜、夫や両親と知人も一緒に食卓で私は自分の混乱を解いてもらおうと思った。「ユダヤって人種のことなの? 宗教のことなの?」一同が愕然として私を見詰めた。「ユダヤとは何ぞや」という人がまだいたなんて。それが僕の妻だなんて」と夫が感極まった声を出した。義母がゆったりと笑った。「ユダヤ人は長い間、世界に離散していて国がなかったの。ある事件がきっかけで祖

を解いてもらおうと思った。「ユダヤって人種のことなの? 宗教のことなの?」一同が愕然として私を見詰めた。「ユダヤとは何ぞや」という人がまだいたなんて。それが僕の妻だなんて」と夫が感極まった声を出した。義母がゆったりと笑った。「ユダヤ人は長い間、世界に離散していて国がなかったの。ある事件がきっかけで祖

ダヤ人士官だった。「ニコールはドレフュスの孫なのよ」私は息をのんだ。そしてユダヤ人にも純粹と、片方の親だけユダヤ人という人への差別があると知り、驚いた。「塩の入っていないスープはおいしくないでしょう。塩が入ると味は変わるのよ」

ある日、クリスマス・デイオール本店にお供した。60歳を過ぎた義母は真っ赤で派手な帽子を買った。彼女に手を差し伸べた私に笑顔を見せ、ハリウッドスターのように手すりにもつかまらずに階段を降りると、足を踏み滑らしてステーンと転んだ。

慌てて駆け寄る私を拒み、すぐに立ち上がった義母は真つすぐ大鏡に向かい、何事もなかったかのようになきな帽子をひよんと被り直した。義母は年老



夫⑤と義父母と一緒に歩く(仏ヴァルモンドワ)

「私は天才なのよ。雑魚に教えるのは嫌」。そんな義母に私は魅せられた。そして彼女には少しばかり「地の塩」が入っているのではないかと考えた。(女優)